

## 議 事 録

会 議 名	平成 30 年度川西市総合教育会議(第 1 回)		
事 務 局 (担当課)	政策調整課		
開 催 日 時	平成 31 年 2 月 21 日(木) 16 時 00 分から 17 時 00 分		
開 催 場 所	川西市役所 4 階 庁議室		
出 席 者	委 員	川西市 越田市長  川西市教育委員会 石田教育長、加藤委員、服部委員、坂本委員、治部委員	
	関係職員	松木総合政策部長、若生教育推進部長、中塚こども未来部長	
	事 務 局	総合政策部政策調整課 大村課長補佐、多田	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第	1 開会 2 議事 (1)平成 31 年度教育施策について 3 その他		
会 議 結 果			

## 会議経過

発言者	発言内容等
事務局	<p>それでは、ただいまより第1回川西市総合教育会議を開催させていただきます。開催に当たり、総合教育会議の主催者であります越田市長からご挨拶をさせていただきます。</p>
越田市長	<p>皆様、こんにちは。お忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。</p> <p>10月に市長に就任をさせていただいてから初めての総合教育会議ということで、本来であれば年2回開催ではありますが、市長選挙による市長の交代、また教育委員の治部委員の就任に伴い、従来の予定と違う形のスケジュールになりました。</p> <p>私は、市長選挙に当たりまして、子どもたちに人生最高のスタートを、という目標を掲げさせていただきました。私自身が教育にかける思いは、私も1人の親でありますので、お金で買えるものを与えるのではなく、お金で出せないものこそ、我々教育に携わる行政がしっかりと提供していく必要があると思っています。教育委員の皆様にはそれぞれの分野での取組み、またアドバイスをいただければと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>これよりの会議の進行につきましては、越田市長にお願いしたいと思っております。</p>
越田市長	<p>それではただいまより、第1回川西市総合教育会議を始めたいと思います。</p> <p>まず、「平成31年度教育施策について」を議題といたします。教育長からご説明をお願いいたします。</p>
石田教育長	<p>教育委員会からは川西市の教育の推進の方向ということで、平成31年度の主な取組みを説明させていただき、そののち、各委員からそれぞれの知見に基づいた川西市の教育のあり方についてご意見を述べさせていただきます。越田市長には、そのあとでコメントをお願いしたいと思います。</p> <p>それでは私から、お手元の「川西の教育」という資料に沿って説明します。</p> <p>表紙になっています「シロバナウンゼンツツジ」は、清和台東にあり、平成30年に天然記念物に指定されました。地域の方が中心になって保存して、清和台地区の小学生が環境体験学習に使っているところでございます。来年度は、これを表紙に使わせていただきたいと思います。それでは、1ページをご覧ください。</p> <p>川西市教育委員会では、「地域と人の輪で作る 育ち学び合う教育の推進」を基本理念に掲げています。地域と人のつながりによって、子どもたちの成長を見守っていかうという趣旨が込められております。それから「育ち学び合う」というのは、教育推進部とこども未来部の両方を教育委員会ですべて所管しているところの理念を表しています。</p> <p>この基本理念をもとに、目指す人間像を4つ挙げております。「ふるさと川西に誇りを持ち、地域や文化、自然とともに生きる人」、「夢に向かい 志を持って未来を切り拓く人」、「生命と人権を尊重し 思いやりと規範意識を持った人」、「自ら学び 考え社会の発展に貢献する人」の4つです。</p> <p>2ページをお開きください。目指す人間像に基づき、5つの基本方針を掲げております。</p>

発言者	発言内容等
	<p>I 地域に根差した子育て・教育を推進します  II 未来を切り拓き、たくましく生き抜く力を育みます  III 互いを認め合い、共に生きる態度を育みます  IV 参画と協働を支える生涯学習を推進します  V 安全で安心できる快適な教育環境を整備します</p> <p>を柱立てしております。</p> <p>3ページをご覧ください。それぞれの基本方針に基づいて具体的な取組みを記載しています。ここでは、来年度に向けて、特に変更した項目を挙げさせていただきます。</p> <p>まず、「I 地域に根ざした子育て・教育を推進します」では、「保育所・認定こども園・幼稚園・学校・家庭・地域の連携の推進」の上から6つ目の「留守家庭児童育成クラブ事業の充実」を挙げています。また、その2つ下の「学校運営協議会設置の推進」では、学校運営協議会をモデル校に設置して、研究を進めたいと考えています。次に、「保育所・認定こども園・幼稚園・学校の教育連携の強化」の3つ目の「教育長による学校園所への個別訪問」ですが、従前までは中学校区の管理職による懇談を実施していましたが、教育長が各学校園所を訪問し、具体的な個々の課題について、現場と共有を図る方法へ変更しております。</p> <p>次に、「II 未来を切り拓き、たくましく生き抜く力を育みます」の「魅力ある乳幼児期からの教育・保育の推進」の上から4つ目、「就学前と小学校の円滑な接続に向けた事業の実施」、その下の「幼児教育無償化の実施」を挙げています。</p> <p>「就学前と小学校の円滑な接続に向けた事業の実施」は、接続期カリキュラムにより、就学前の教育と小学校の教育をスムーズに接続させようというものです。今回は、牧の台小学校と牧の台みどりこども園で研究を進めていきたいと考えております。</p> <p>4ページに移ります。3つ目の四角の「教職員の資質・指導力の向上」ということで、3つ目に「部活動における外部コーチ及び部活動指導員の活用」を挙げています。その2つ下、「課題別研究・委託研究の充実」ということで、できるだけ多くの教職員が学校を超えて参加できる取組みを進めているところです。</p> <p>「III 互いを認め合い、共に生きる態度を育みます」では、2つ目の四角「生きる力を育む体験活動の推進」の「子どもの自治力向上に向けた取組の実施」において、子どもたち自身が企画運営をしていく取組みを実施する予定です。</p> <p>5ページ、「IV 参画と協働を支える生涯学習を推進します」については、大きな変更はありませんが、川西市は社会教育が非常に充実しているというのは、参加者からもご意見をいただいています。市長にもレフネックの修了式等に参加していただきました。ありがとうございました。</p> <p>このような社会教育の充実をさらに図っていくとともに、学校教育とどのように連携していくかということについて研究を進めていきたいと思っております。</p> <p>それから6ページに移りますが、上から5つ目「2022年2学期からの中学校給食実施に向けた準備」ですが、教育委員会としても中学校給食の実現に向けて、さらに取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>7ページの「2019年 施政方針より」は、施政方針から抜粋した内容を掲載しております。教育委員会としても、市長部局と協力し取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>川西市の教育の大きな方向性についてお話しさせていただきました。</p>

発言者	発言内容等
加藤委員	<p>それでは各委員からのご意見を申し上げます。加藤委員、申し上げます。</p> <p>それでは私からお話をさせていただきます。資料の「平成31年度教育施策について」をご覧ください。①～③について、私の考える本市のあるべきこれからの教育行政の提言を話したいと思います。</p> <p>まず、①～③における特徴的なことは、「省庁横断的」ということです。①の「第3期教育振興基本計画」は文部科学省、②の「未来教室」「EdTech 研究会」は経済産業省、③の「地方制度調査会」というのは内閣府、あるいは総務省の管轄です。このように、省庁横断的に教育施策に対する提言がなされていることが評価できる点かと思えます。「society5.0」など新しい用語がたくさん出てきており、急速な変化があるということがわかります。ここからは、このような新しい用語の説明をさせていただきます。</p> <p>まず1番目の文部科学省所管の「第3期教育振興基本計画について」です。Society5.0 は、「超スマート社会」を指します。それ以前の Society1.0 は狩猟社会、Society2.0 は農耕社会、Society 3.0 は工業社会、Society 4.0 は情報社会を指します。それらの移行スピードは、Society1.0 狩猟社会から Society2.0 農耕社会へは大体1万年単位、Society2.0 農耕社会から Society3.0 工業社会へは1,020万年、Society3.0 工業社会から Society4.0 情報社会へは100年単位で移行しています。ところが Society4.0 情報社会から今回日本政府が提唱した Society5.0 へは、15年です。例えば幼稚園の子どもが大学を卒業するまでの間に、社会環境が全く変わってしまう可能性があります。変化する社会に適した教育を行えなければ、子どもたちが社会を生きるための教育ではなくなってしまう可能性があるということです。</p> <p>それから2番目の経済産業省の「未来教室」「EdTech 研究会」です。「未来の教室」と「EdTech 研究会」の第1次提言のポイントという資料の中にも新たな用語の「STEM」あるいは、Aをプラスした「STEAM」という用語が出てきます。</p> <p>STEMというのはSサイエンス、Tテクノロジー、Eエンジニアリング、Mマスマティクスの頭文字、プラスするAは、Aアートを表します。</p> <p>また、「競争戦略論」で有名な経営学者のマイケル・ポーターが使っている経営学用語であるCSRやCSVという言葉も出てきます。CSRというのは「企業の社会的責任」、CSVは「共有性の創造」のことです。教育にも経営学的な考え方が持ち込まれています。アルゼンチンのブエノスアイレスで行われた2018年G20の教育大臣会合でも同じ話題があがっておりました。加えて、林前文部科学大臣がテレビ番組で「ティーチャーからファシリテーターへ」という印象的な言葉を使っていました。教師は、教室ではファシリテーター、司会者であるべきだということです。</p> <p>3つ目の地方制度調査会についてですが、この話題に入る前に、教育の地方分権の歩みというものを探ろうと思ひまして、年表をつくりました。この中でポイントとなるのは2010年代の安倍政権になってからの提言です。2010年度以降というのは、教育施策が多方面と連動しながらすごいスピードで進んでおり、教育行政の地方分権に関する新しい施策が立て続けに出されています。チーム学校やコミュニティスクール、教員の資質向上などが挙げられます。</p> <p>教育行政の地方分権を1番端的に表しているのが、学校が学校向きのベクトルから地域創生のベクトルにかわり、地域をつくることにシフトしたことです。その上で改めて3番目の地方制度調査会の提言について話したいと思います。</p> <p>地方制度調査会第30の提言では、人口減少が避けられない中で、「フルセット行</p>

発言者	発言内容等
	<p>政」は限界がある、といわれています。「フルセット行政」とは、例えば、川西市に必要な行政サービスを川西市が全て提供するという事です。</p> <p>その中で、地方自治法に基づく圏域関連の例としましては、関西広域連合のような広域連合、あるいは事務組合・協議会、連携協約などがあります。また、2008年からは、定住自立圏構想を総務省が出しており、昨年までで121件、2014年からは連携中枢都市圏構想が出され、28件の実績があります。</p> <p>また、この答申には圏域構想についても記載しております。圏域構想とは、今の広域連合というような緩い連携ではなくて圏域自体を行政単位として位置づけ、行政サービスの統廃合を行うという考えです。</p> <p>川西市の養護学校ですと、猪名川町から生徒を受け入れており、圏域構想の走りになると思っております。また、先日坂本委員と見学にいった尼崎市では、夜間中学校において、周辺市町からも生徒を受け入れており、明らかに圏域を意識した運営が行われておりました。本市においては、この圏域構想において、中心に立っていただきたいという要望があります。</p> <p>今後の行政のあり方を常に意識しながら、教育分野においても、ICTをうまく活用できれば川西の教育としても発展すると思っております。来年度導入するタブレットも、単にハードウェアを導入するということではなく、教育にどのように活用していくかという明確な目標を持って、長いスパンでの検討が必要と考えます。以上です。</p>
石田教育長	では次に、服部委員どうぞ。
服部委員	<p>事前に配布している資料を見ていただければと思います。</p> <p>先ほど教育長が説明した「川西の教育」の中で、「ふるさと川西に誇りを持ち、地域や文化、自然とともに生きる」ということが挙げられていました。</p> <p>ふるさと川西に誇りを持つために、伝統的里山と先進的里山という考えのもと、「里山景観都市」という構想を提案したいと思っております。伝統的里山と先進的里山という両方の里山をシンボルにして地域振興、観光レクリエーション、子どもたちの環境学習に活用できないかということです。</p> <p>その背景にあるのは、川西市にある貴重な自然です。台場クヌギ群落をはじめ、エドヒガン群落、それからこの「川西の教育」の表紙に使われていますシロバナウンゼンツツジ、自然林のブナ林、コジイ林といったたくさんの自然が存在しています。それら自然を教育委員会では天然記念物として指定し、小学校3年生の環境体験学習、小学校4年生の里山体験学習、また、生涯学習にも使っています。体験学習では、市民ボランティア活動により実施しています。</p> <p>文化財指定はできていませんが、ナラガシワーヨシという特殊な植物を使った他の地域には見られない「ちまき」という供物や池田炭のような文化財的価値のものもあります。</p> <p>伝統的、先進的里山の今後の課題としては、以下が挙げられます。1つ目は、伝統的里山と先進的里山の文化財や観光資源としての重要性やその価値が市民へ十分に周知されていないことです。2つ目に、伝統的里山を表すクヌギ林が放置されていたり、一部が売りに出されるなど、その保全について課題があります。3つ目は、シカの食害による被害がひどく、林内が荒廃し災害の危険があります。最後に、市民団体構成員の高齢化が進み、後継者がいないことも課題となっています。</p>

発言者	発言内容等
坂本委員	<p>次のページでは、中には市長部局とも連携が必要な分野もありますが、「里山景観都市」計画の具体的事項を記載しています。</p> <p>伝統的里山、先進的里山の現状を調査し、保全対策を立てます。特にシカの被害の被害が大きいところでは、兵庫県の「里山防災林整備」、「野生動物共生林整備」などの事業を活用し、管理をしていく方法も一案ではないかと思えます。</p> <p>天然記念物指定は所有者の許可がないとできないため、所有者に重要性を訴えて文化財指定を進め、加えて、先ほどのナラガシワヨシのちまきや池田炭を無形民俗文化財に指定することも必要です。</p> <p>市民団体の支援により実施している小学校の体験学習は、全小学校へ拡充する必要があると思います。</p> <p>市職員に里山の重要性を意識させるために、阪神北県民局が実施している北摂里山大学という講座を受講させることも必要です。</p> <p>里山の整備には、林野庁の森林環境譲与税の活用も検討できると思います。林野庁等に確認したところ、里山の保全や整備への使用については、問題ないということです。</p> <p>資料の表1は、兵庫県版レッドデータブックに記載されている川西市内の貴重な自然をすべて掲載しています。一覧の中には、天然記念物に指定されていないものもありますが、重要なものは、少しずつ指定をかけています。</p> <p>表2は、川西市内の自然環境保全市民団体を掲載しています。最後の事業名と小学校は、私からの提案になります。</p> <p>最後の図1は、川西市の里山を取り巻く環境を体系化したものです。先進的、伝統的里山を市民団体が管理し、教育委員会で貴重な自然を天然記念物指定を行うことで、重要性を訴えていきます。また、小学校3年生、4年生、5年生へ体験教育を実施しているのは、兵庫県下で川西市だけであり、その環境を支えているのが市民活動団体になります。以上です。</p> <p>私はPTAに長らく関わってきましたので、そのあり方について述べさせていただきます。</p> <p>日本におけるPTAとは、各学校に組織された保護者と教職員による社会教育関係団体のことです。任意団体であり、結成や加入を義務づける法的根拠はなく、全ての児童生徒のためのボランティア活動が、いわゆるPTAの主旨です。</p> <p>そもそもPTAができた頃は戦後で、保護者と教職員が手を取り合って子どもたちのために活動してくださってきたと思っています。</p> <p>ただ設立から70年がたち、女性の社会進出など社会の構図が大きく変わりました。現在もPTAの役員は女性がほとんどで、子育てと仕事とPTAの3つのわらじというのは本当に難しい時代になってきたなと感じています。</p> <p>昔からの手法をそのまま引き継いでいて、現在の社会状況からはいびつな形での運営になってきていると感じています。しかし、現状に合わせた改革をしようと思っても単位PTAだけではなかなか変えられないというところが、自分の実感となります。</p> <p>川西市PTA連合会広報誌「たつのおとしご」では、各校の活動内容の見直しについて特集しています。それぞれに創意工夫しながら持続可能な活動を模索されていますが、単位PTAだけでは、なかなか変えていけないというところがあり、学校や地域全ての人たちが、今の保護者にできるPTA活動について考えていかないと変え</p>

発言者	発言内容等
	<p>ることは難しいと思います。</p> <p>先ほど、加藤委員がおっしゃっていましたが、ベクトルが地域に向いているというところで、PTAだけが勝手に変わるとするのは難しいので学校や地域など、様々な人たちと考える場である「PTAのあり方検討会」というものが本当に必要なことだと思います。ただ、現在よく聞かれるのが、無駄なことはやめてスリム化しようなど、割と強めな声で、他市の事例では、PTAが任意団体ということを説明したら、会員数が15%にまで下がった学校もあるということを知りました。</p> <p>ですので、安易な縮小ではなく、PTA活動の本来の目的や活動によって得られるもの、任意団体であるPTAだからこそできることを考える場であればいいなと思っています。</p> <p>それこそ私が子どものころは、PTAというと学校に物申す団体というイメージがありましたが、これからは子どもを取り巻くおとなが手をとり携えて健やかな学びをサポートする応援隊のような存在であればいいなと思っています。</p> <p>大阪市立大空小学校の木村校長が書かれた本では、保護者はサポーターとしてかかわっているとあります。保護者としてどうあるべきかが書かれており、今後の参考にしていきたいと思っています。</p> <p>PTAは今いろんなことが言われていますが、私たち保護者自身がPTAで学ぶことの方が多という実感があります。私は、15年以上関わっていますが、いいところも悪いところも様々な経験をしました。メンバーは隔年度ずつ変わっていきますが、初めはみんな嫌々なんです。当たってしまった、嫌だったと思うんですけど、1年間、2年間やってみたらやっぱり楽しかったし、何より勉強になったとかPTA活動をしなれば、見えなかった世界が見えたという意見をよく聞いています。</p> <p>PTA活動は、子どもたちのためだけではなく、子どもたちを取り巻く全ての人たちが学ぶ機会ではないかと思っています。しかし、現状に合わせて、持続可能な形にシフトしていくことも必要です。</p> <p>PTAだけではなく、学ぶことで、市民一人ひとりが力をつけていくというイメージがあり、それが実は川西市全体の力につながっていくのではないかと思っています。先日、高齢者大学のレフネックを見学しましたが、真剣に学ぶ先輩たちが本当に格好よくて感動しました。また個人的には、ファミリーサポートという地域の子育て支援も行っていますが、その場でも人生の大先輩がいきいきと活躍されています。そういう姿を見たときに私も学び続けたいという気持ちになります。</p> <p>このように、人生を先に生きるおとなが楽しく学んで、いきいきとした姿を子どもたちに感じてもらうことこそ、学ぶって楽しいなとか、おとなになるって楽しそうだなって感じてくれるのではないかと思っています。主体的に学ぶことが大切だと言われる昨今ですが、私たちおとなこそ主体的に生きる手本とならなければいけないと思います。人は生まれた時から生涯を終えるまで学び続けられると言われていています。その学びは連続しているので、学校教育だけでなくPTAや地域の活動、図書館や公民館活動など、学びを得られる機会をたくさん作ることが大切だと思っています。</p> <p>中でも、公民館活動は、対象がシニア向けの講座が多く、乳幼児や親子向けの講座数は十分の一を切っています。公民館にたくさん足を運んでもらうきっかけをつくれば、公民館は身近な存在になるので、それこそ子ども食堂をすることも、身近な存在である場には行きやすいと思うので、公民館にも様々な講座があればいいなと思っています。</p> <p>私は常々、人のために何かしたいという意欲は、自分の意見を言っても大丈夫だ</p>

発言者	発言内容等
	<p>という安心感から生まれてくると思っています。ここにいていいという安心感により培われるのは、自己肯定感とか基礎的な自尊感情などと言われるものですが、それをベースにしてこれから起きてくるだろう問題とか課題に立ち向かう勇気がわいてくるのではないかとと思っています。</p> <p>家庭だけではなくて、学校や地域にも安心できる場所づくりができたらと思っています。それで生まれたつながりが新たな地域の力になり、川西の力になるのではないかと思います。どうぞよろしくお願いします。</p>
石田教育長	<p>それでは続いて治部委員、お願い致します。</p>
治部委員	<p>私からは3つのテーマを共有できればと思います。</p> <p>1つ目が、親の立場に立った子育てのサポートと直接支援です。2つ目が、教職員の負担軽減につながるサポートとエビデンスに基づいた指導です。3つ目が子どもの貧困についてです。</p> <p>1つ目の親の立場に立った子育てのサポートと直接支援ですが、非認知スキルをできる限り伸ばしたいと考えています。</p> <p>シカゴ大学のヘックマン教授による研究が大変興味深いので紹介します。同じ学力を持っているであろうグループを1つは高校中退、もう1つは高校卒業に分けて、それぞれが大学に進学したときにどちらがどれだけ4年間で卒業できるかというデータを取りました。結果は、高校中退グループが3%で、高校卒業グループが46%でした。また、高校中退グループの3%は、高校卒業グループの46%に比べて、離職率や離婚率、薬物乱用率が非常に高かったというデータも出ています。この結果は、心理学的には非認知スキルが影響していると考えられます。非認知スキルとは、コミュニケーション能力や報酬先送り能力、諦めない能力などを指します。この非認知スキルを子育てのサポートに盛り込んでいけないかと考えます。</p> <p>2つ目の教職員の負担軽減とエビデンスに基づく指導ですが、子どもたちの主体的な学習参加をサポートするため、学習の動機づけは外せないと考えております。子どもたちがやる気になれば学習するでしょうし、やる気がなければ、どんなにいい授業を受けてもあまり習得しないかもしれない。そのために大切なのが、やはり行動の理論と、脳科学のこの2点ではないかと考えております。行動支援の方略や子どもたちの脳の発達についての情報を教職員の方々と共有できれば、負担軽減になるのではないかと思います。</p> <p>それと同時に、子どもたちの危険因子にも目を向けていくことが必要ですし、エビデンスになると思っています。危険因子が多い子どもたちに対して学校の先生がその危険因子を見据えた言葉がけができると、子どもたちも楽になると思います。</p> <p>最後にユニバーサルデザインというキーワードも考えていきたいと思っています。それぞれ学習スタイル、認知スタイルが違うため、スタイルを踏まえた行動的なサポートの方法を共有できればと思います。</p> <p>最後に貧困です。貧困は、発達の促進を阻害する大きなリスクファクターで、子どもたちの資質に関わらず、健全な人格形成に影響を与えていると言われています。貧困への働きかけ方についても、提言できればと思っています。</p> <p>私自身、発達心理学を専門としているので、できる限り今挙げたテーマに対して発達心理学の視点を混ぜていきたいと思っています。</p>



発言者	発言内容等
	<p>簡単ではありますが、発達心理学がどういうものか説明します。1つは人の成長を時間軸で見て、幼児期の心理特徴が思春期になったときにどう影響するのか相関関係をみていくということです。もう1つは、文化社会的な対人関係の中で人は育まれるということです。この大きな2つの考えを組み合わせしていくのが発達心理学であるならば、幼児期の子育て、学童期の子育て、あとは学校での過ごし方を考えることだと思います。他には、インクルーシブ教育とか特別支援教育とかいじめとか不登校とか、意見を言いづらい人たちの立場から、ものごとを考えていきたいと思っています。</p> <p>最後になりますが、川西の教育という指針について、自分の専門分野とのつながりをリサーチしていきたいと思っています。また、「福祉にビジョンを」ということと「教育にエビデンスを」というこの2つについても提言していきたいと思っています。以上です。</p>
石田教育 長	<p>ありがとうございます。長くなりましたが、教育委員会からの意見は以上となります。</p>
市長	<p>ありがとうございます。それぞれ素敵なお話をいただいたと思っています。</p> <p>加藤委員から圏域という大きなお話をいただきました。私が市長になって最初に取り組んだのが、猪名川町との包括連携協定です。まさにおっしゃっていただいたように、どの分野ということをお問はず、みんなで幸せになるために連携しようということがあります。市内には、猪名川町と川西市とが接している地域もありますので、教育に関して、一体的な取り組みができないか、検討していきたいと思っています。</p> <p>治部委員からもありましたようにエビデンスの部分に関しまして、今回導入するタブレットPCの配置についても、エビデンスに基づいた展開を実施していきます。全校に幅広く導入するより、一校に40台を配置し、導入効果のエビデンスをとっていきこうと考えています。そのエビデンスに基づき、今後の全市的な導入や手法などの検討を行い、効果的な取り組みとしていきます。ご提案いただいたエビデンスに関する考えというのは重要なことですので、しっかりと取り組ませていただきます。</p> <p>服部委員からも「里山景観都市」というご提案をいただきました。里山を含む黒川地域は、川西の宝でもありますし、子どもたちにとっても重要なものでありますので、どうやったら守っていけるか、担当部局でも検討しておりますが、教育委員会という立場だけではなく、専門家としてアドバイスを頂ければと思います。</p> <p>また、小学校の体験学習は、服部委員と一緒に作り上げた歴史があります。時代が変わっていく中で変えていかないといけないこともありますが、自然との触れ合いという教育は変わらず必要だと思いますので、今後も継続して取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>坂本委員からいただきましたPTAの問題につきましては、賛否を含めていろいろな意見があるというのは、承知しております。ただ、坂本委員がおっしゃっていたように、現在は、改善に向けて考えているうちに期間が終わってしまい、改善につながらないことが多いのではないかと思います。皆さんの貴重な時間を使うのであれば、子どもを中心において、子どもにとって最良となるように考えることが必要です。PTAという言葉にもこだわる必要はないと思っています。私も親ですが、親の立場として、学校や子どもにどうかかわっていくかが重要です。また、教職員の立場から見ると、学校行事において、教職員は学校とPTAのそれぞれの立場からかかわっていますが、役割が重複しておりPTAという組織として矛盾を感じています。そういった部</p>

発言者	発言内容等
坂本委員	<p>分を見直す機会にさせていただき、「負担」ではなく、「負担感」をいかに軽減できるかという視点が必要だと思います。</p> <p>PTAの組織について問題提起を行いました、それは議論する場所をつくりたかったからです。2年という期間で見直しを行います、短期的な課題に対しては、教育委員会から方針を出していただき、長期的な課題に対しては、それぞれの学校ごとで異なる解決策でもいいと思いますので、関わる全ての人たちが、自分たちで考えて、決めていただきたいと思います。</p> <p>坂本委員、どうですか。私にも直接意見がきますが、坂本委員のところにも意見は寄せられますか。</p> <p>本当に様々な意見が入ってまいります。よくぞやってくれたという声と、逆に、一生懸命やってきた人達からすると、私たちがやってきたことが間違いだったのではないかという悲しい気持ちになっておられる方もいます。</p> <p>私としては、今回の取組みにより、様々な意見が集まれば、という思いです。</p>
市長	<p>そうですね。私が問題提起したのは、PTAの課題は、考えていい、語っていい、変えてもいい課題だということ投げかけたいと思ったからです。坂本委員には、教育委員という立場からも議論をサポートいただいて、実体験もおありですし、今も役員の方といいご関係が続いているということをお聞きしておりますので、ぜひお力をお貸し頂きたいと思っています。</p> <p>また、社会教育の件について、現状公民館の活動は、子どもや子育て世代等の若い人達に向けたカリキュラムを実施した場合、参加人数という点で課題があり、高齢者向きのカリキュラムが多くなる傾向があります。現場を見ていただき、ご意見をいただきたいと思っています。</p> <p>治部先生からとても積極的なご意見いただきました。私も個人的に幼児教育の経済学やマシュマロテストなどに関する本を読みましたが、日本では大掛かりな実験によりエビデンスをとることに対するハードルが高いように感じます。いわゆるモルモットの様な実験ではなく、より効果的に成果を出す方法を考えるために、小さくステップを踏んで確認をしていくことが必要だということです。治部委員のご指摘の部分は、まさに協力いただきたいと考えていたところでもあります。教職員の研修について、ぜひ現場の皆さんとディスカッションをしていただいて、サポートしていただければと思います。</p> <p>少し漠然とした質問にはなりますが、まずどんな形で入れればよいでしょうか。</p>
治部委員	<p>僕の考えは、おとなも動機付けが大切だと思うので、まずは教職員の方々が何に困っているのか、どんな問題意識がおありなのかを伺った上で、そこに寄り添うのがいいと思います。まずはコンサルテーション的な入り方で、こちらがいいと思うことやエビデンスに基づいた内容を伝えたいと思いますが、それよりも、教職員の方が何を知りたいか、どんなことに困っているかが大事であると思います。</p>
市長	<p>我々も現場が困っている中で、様々な対策を行っていますが、異なる発想でご提案などをしていただければと思います。</p> <p>教育長による学校園所への個別訪問についても、市長の立場からもありがたいですし、ぜひ現場の意見をきいていただきたいと思います。川西の教育委員会は、こ</p>

発言者	発言内容等
<p>石田教育 長</p> <p>市長</p>	<p>ども未来部と教育推進部が組織されていて、幼児教育から若者対策までを所管していますので、教育委員会内でディスカッションを行っていただき、市長部局へもフィードバックをお願いしたいと思います。我々もそれを受けてしっかりと形につなげていきたいと思います。</p> <p>2022年9月スタートと表明をした中学校給食ですが、市民の方から期待しているとの意見がある一方で、自分は導入時期に間に合わないといった意見もいただきます。様々な方式での実現可能性を含め、改めて教育長はじめ関係部局と議論しましたが、都市計画法上の問題などにより、PFIによるセンター方式での導入を決断しました。手法は決定しましたが、子どもたちにとってよりよい給食になるのかと不安に思われている方もいますので、しっかりと対話を重ね、説明をしていきたいと思います。</p> <p>加藤委員は、食育の面でもご意見があるかと思えますし、また、他の委員の皆様も様々な意見を聞かれると思えますが、ご理解とご協力をお願いしたいと思います。</p> <p>教育委員会としてもいろいろな考えがありましたが、基本的に今の方針で一致をしております。実現に向けて、協力しながら進めていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。</p> <p>よろしくお願ひします。</p> <p>最後に特にこのテーマを議論したいというものがありませんでしたが、いかがでしょうか。</p> <p>ないようでしたら、これで第1回総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>

以下会議の事項を記録し、相違ないことを認めたので、ここに署名いたします。

平成 31 年 3 月 29 日

川 西 市 長 越 田 謙 治 郎

川西市教育長 石田 剛